

次世代を見据えた交通基盤の整備

～多様なニーズに応えるみちづくり～

令和4年12月22日

道路企画課長 長井 貴裕



多様なニーズに応じた道路整備を進めるため、どのような仕組みづくりが必要か。



- 1 道路整備をとりまく状況
- 2 多様なニーズに応えるみちづくり
- 3 多様なニーズに応えるための個別施策



1 道路整備をとりまく状況

道路の改良率

改良率：約55%（全国38位）

上段：R2.4.1現在（全国平均）

中段：R2.4.1現在

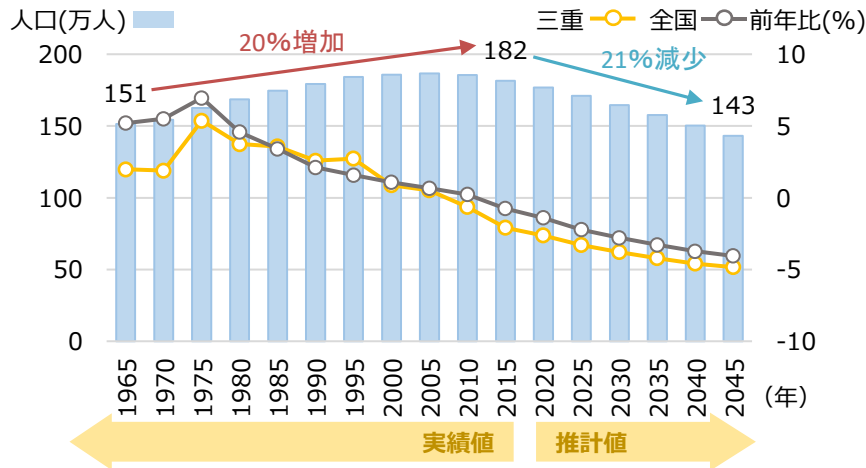
着色部数字は全国順位（R2.4.1現在）

区 分	実 延 長	改 良 (5.5m以上)		改 良 (5.5m未満含)		舗 装 (簡易舗装除)		舗 装 (簡易舗装含)	
		改良率	改良済延長	改良率	改良済延長	舗装率	舗装済延長	舗装率	舗装済延長
一 般 国 道 (指 定 区 間)	412.4	100.0 100.0	1 412.4	100.0 100.0	1 412.4	99.9 100.0	1 412.4	100.0 100.0	1 412.4
一 般 国 道 (指 定 区 間 外)	797.9	86.6 86.5	33 690.3	92.4 89.5	36 714.2	88.2 83.9	34 669.1	99.5 96.6	44 770.4
一 般 国 道 計	1,210.3	92.5 91.1	34 1,102.8	95.6 93.1	38 1,126.6	93.2 89.4	36 1,081.5	99.5 97.7	46 1,182.9
主 要 地 方 道	1,099.4	78.1 71.1	39 781.6	87.5 77.0	42 846.2	75.2 66.4	39 729.9	98.2 97.7	38 1,074.0
一 般 県 道	1,536.9	61.4 58.4	28 897.3	75.6 67.5	35 1,037.0	57.6 54.1	29 830.7	95.6 95.0	33 1,459.6
県 道 計	2,636.3	68.9 63.7	32 1,678.9	80.8 71.4	38 1,883.2	65.4 59.2	35 1,560.6	96.8 96.1	35 2,533.6
県 管 理 道 路 計	3,434.1	73.2 69.0	33 2,369.2	83.1 75.6	38 2,597.4	69.9 64.9	34 2,229.7	97.2 96.2	37 3,304.1
国 県 道 計	3,846.6	76.0 72.3	31 2,781.7	85.3 78.2	38 3,009.8	73.8 68.7	34 2,642.1	97.6 96.6	37 3,716.5
市 町 村 道 計	21,422.3	18.1 13.9	35 2,987.4	59.0 51.2	38 10,966.9	18.2 17.7	23 3,787.3	78.9 81.9	30 17,535.2
合 計	25,268.8	27.4 22.8	34 5,769.1	63.1 55.3	38 13,976.7	26.9 25.4	27 6,429.4	81.8 84.1	30 21,251.7

1. 数値は、2021道路統計年報による。
2. 数値には、磯部大王自転車道線、松阪伊勢自転車道線を含まない。
3. 各々の数値は、単位未満を四捨五入した為、合計数値と合計欄が合致しないことがある。
4. 国指定区間については近畿地方整備局が管理する県境の橋梁・トンネルは含まない。

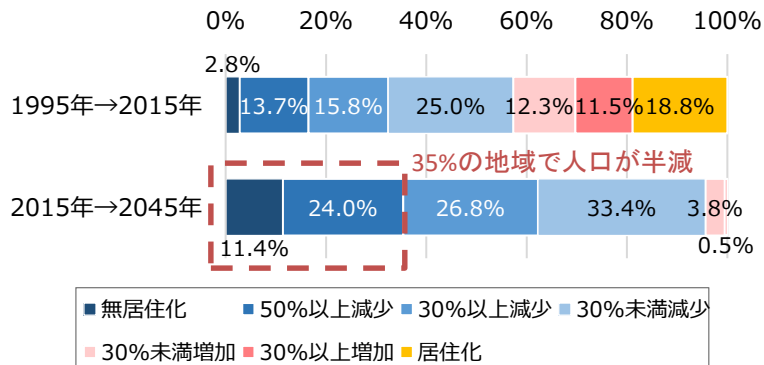
人口減少

■ 総人口と高齢化率の推移



出典：総務省 各年の「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より作成

■ 人口増減割合別の地点数(1kmメッシュベース)

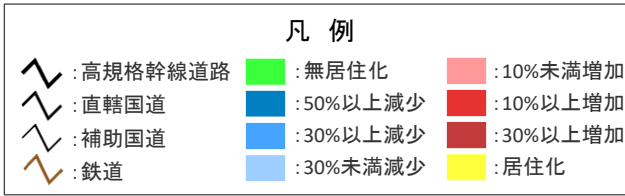
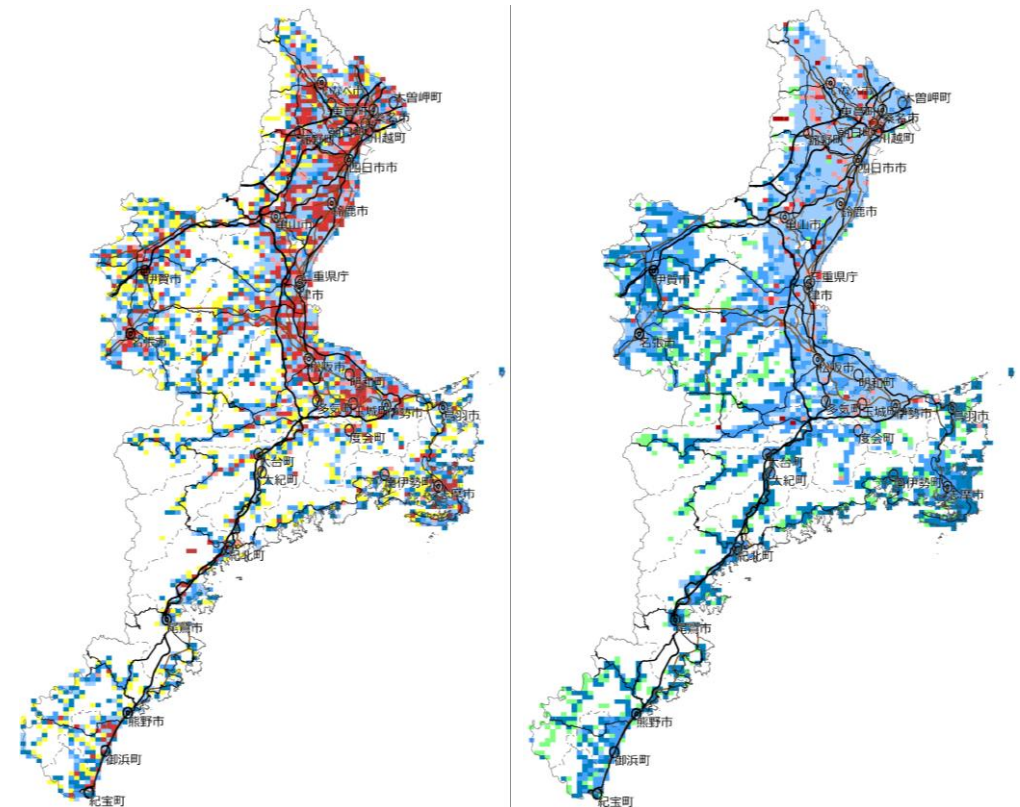


出典：総務省 各年の「国勢調査(地域メッシュ統計 人口等基本集計に関する事項)」、国土交通省「国土数値情報 1kmメッシュ別将来推計人口(H30国政局推計)」

■ 人口増減率の分布(1kmメッシュ)

平成7(1995)年→平成27(2015)年

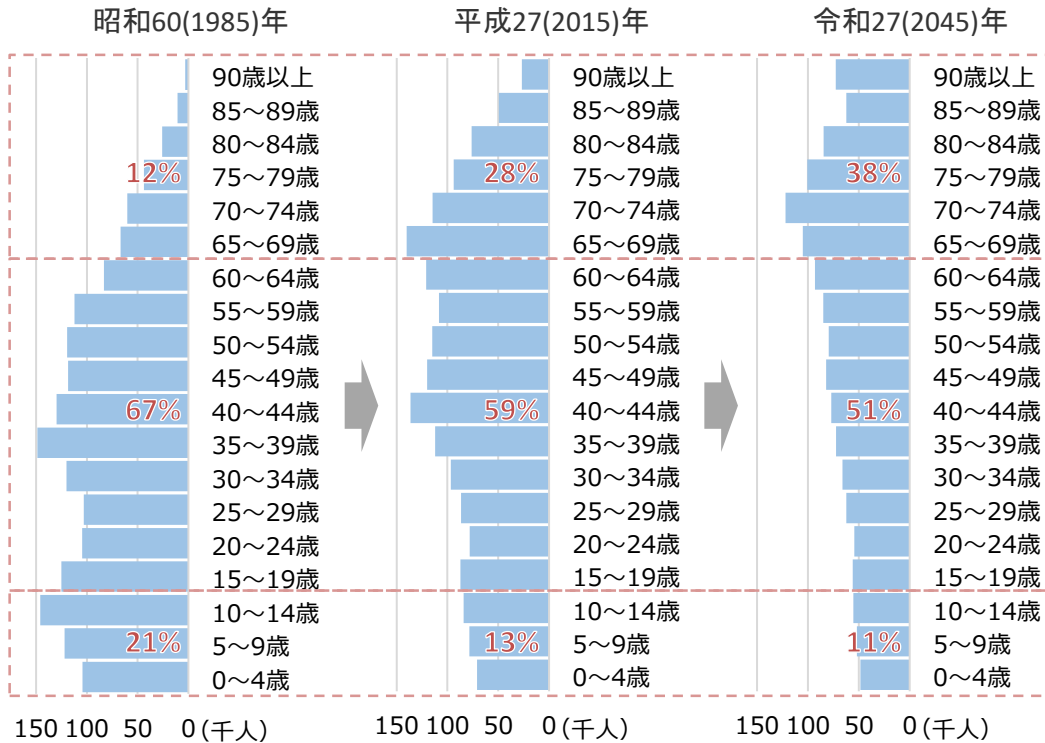
平成27(2015)年→令和27(2045)年



出典：総務省 各年の「国勢調査(地域メッシュ統計 人口等基本集計に関する事項)」、国土交通省「国土数値情報 1kmメッシュ別将来推計人口(H30国政局推計)」

少子高齢化の進行

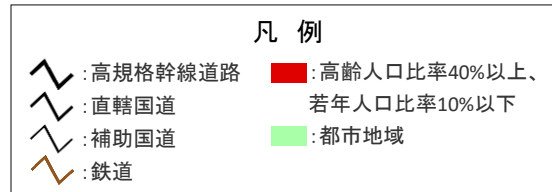
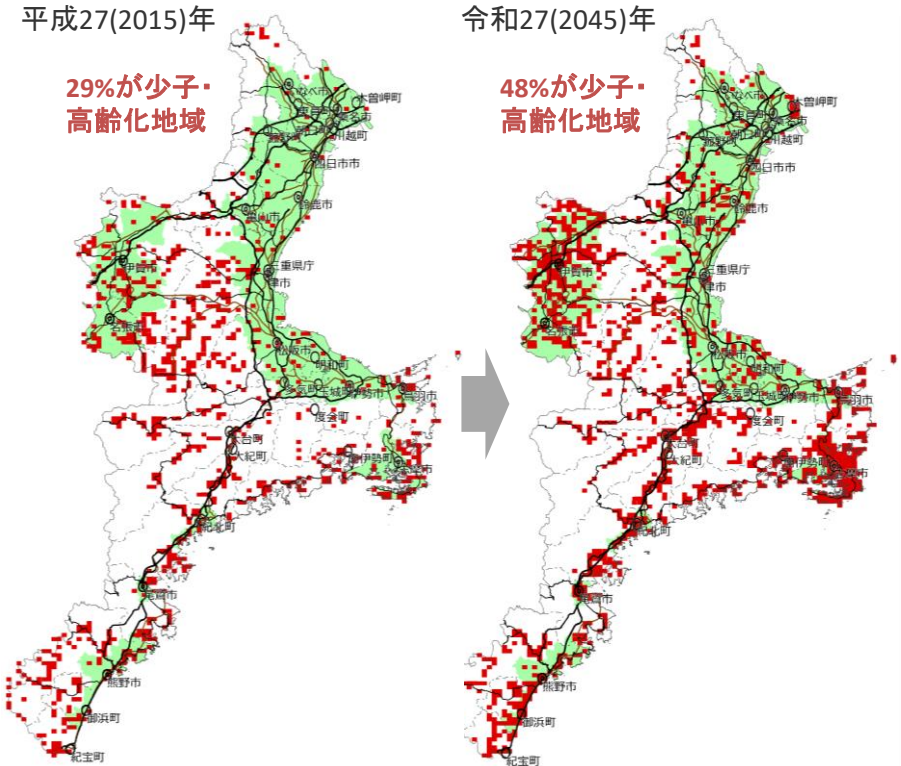
■ 総人口と高齢化率の推移



出典：総務省 各年の「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より作成

■ 少子高齢化地域のメッシュ分布

(高齢人口比率が40%以上、かつ若年人口比率が10%以下)

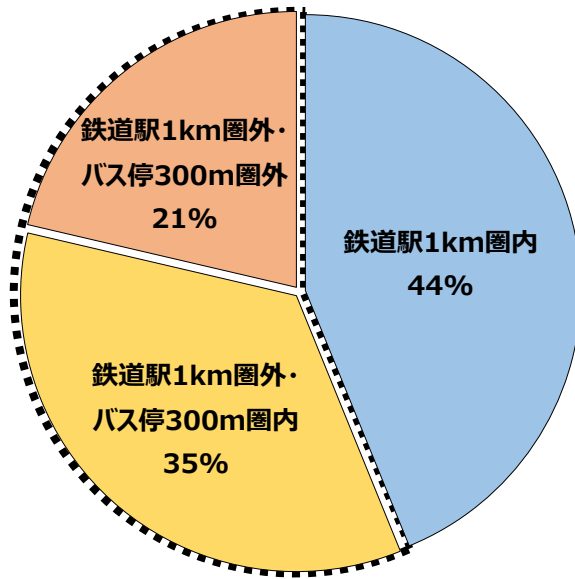


※都市地域とは、一体の都市として総合的に開発し、整備し、および保全する必要がある地域であり、都市計画法第5条により都市計画区域として指定されることが相当な地域(平成30年1月1日時点)

出典：総務省「平成27年国勢調査(地域メッシュ統計人口等基本集計に関する事項)」、国土交通省「国土数値情報 1kmメッシュ別将来推計人口(H30国政局推計)」「国土数値情報 都市地域データ(平成30年度)」

移動制約者の増加

公共交通空白地域の人口割合

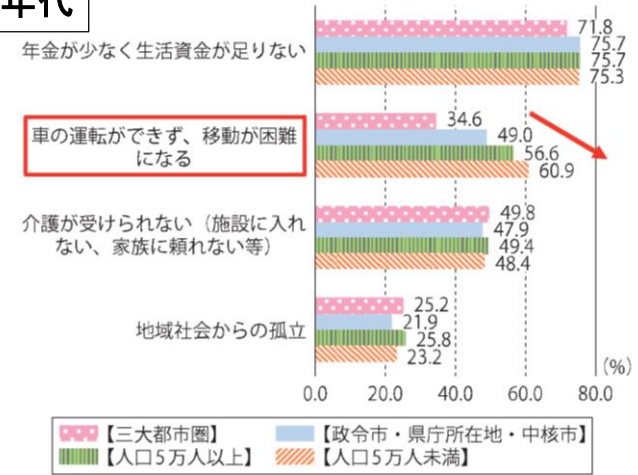


鉄道空白地域(駅1km圏外)
の人口が約56%を占める

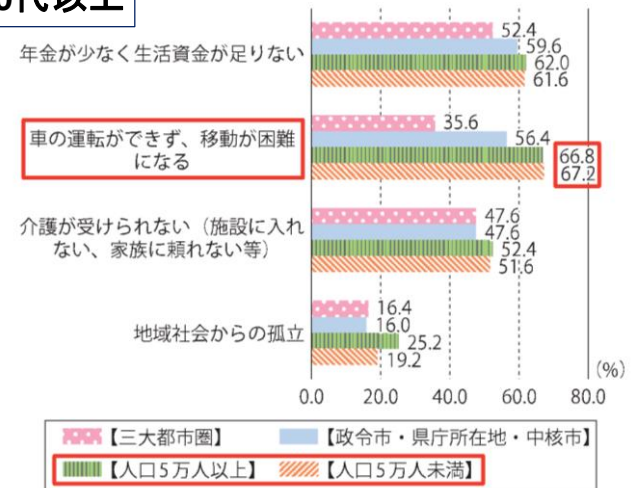
出典: 国土数値情報「鉄道駅時系列(令和元年度)、バス停データ(平成22年度)」、
平成27年国勢調査メッシュ人口(250mメッシュ)を基に作成

老後の生活に関する不安

全年代



60代以上

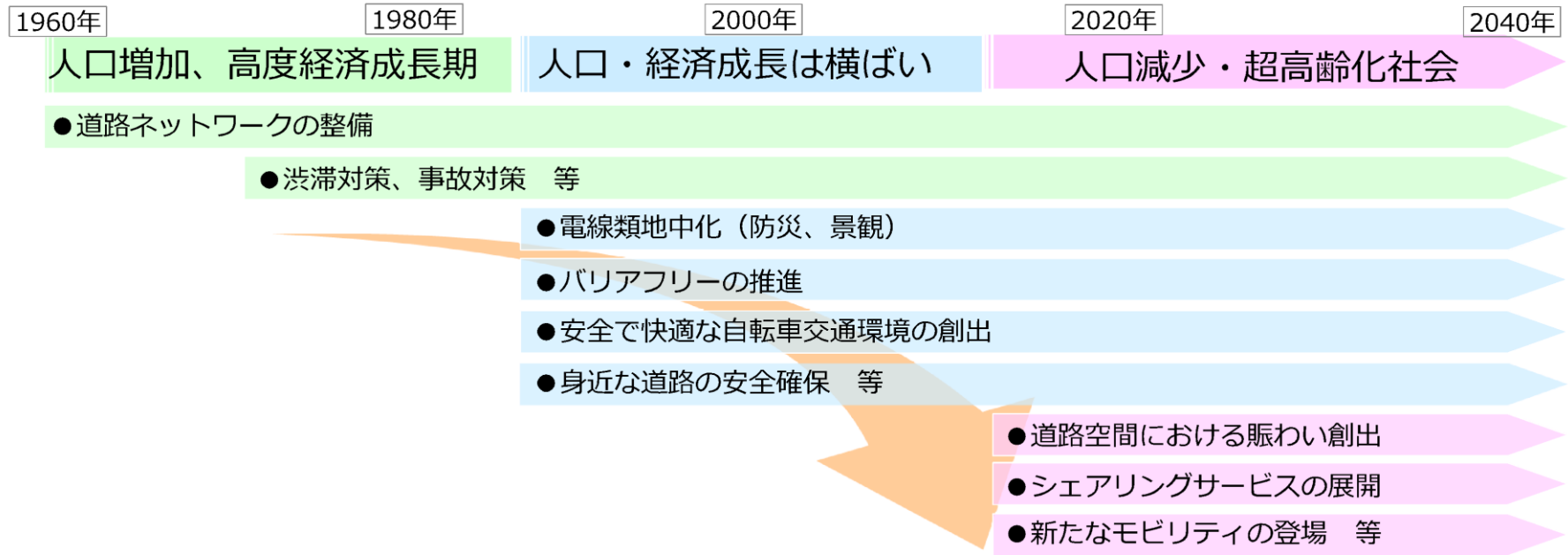


出典: 国土交通省「令和2年版 国土交通白書」



ニーズの多様化

■ 時代とともに多様化してきた道路空間へのニーズ



ニーズの増大と多様化

出典：国土交通省「第1回「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会（2020年5月21日）資料4」



2 多様なニーズに応えるみちづくり

人口減少
少子高齢化

ニーズの多様化

デジタル化(DX)
グリーン化(GX)

厳しい財政状況



- 多くの未改良区間がある中、全ての区間を道路整備することは困難
- ニーズの増大と多様化に対応した道路整備を進めることが必要

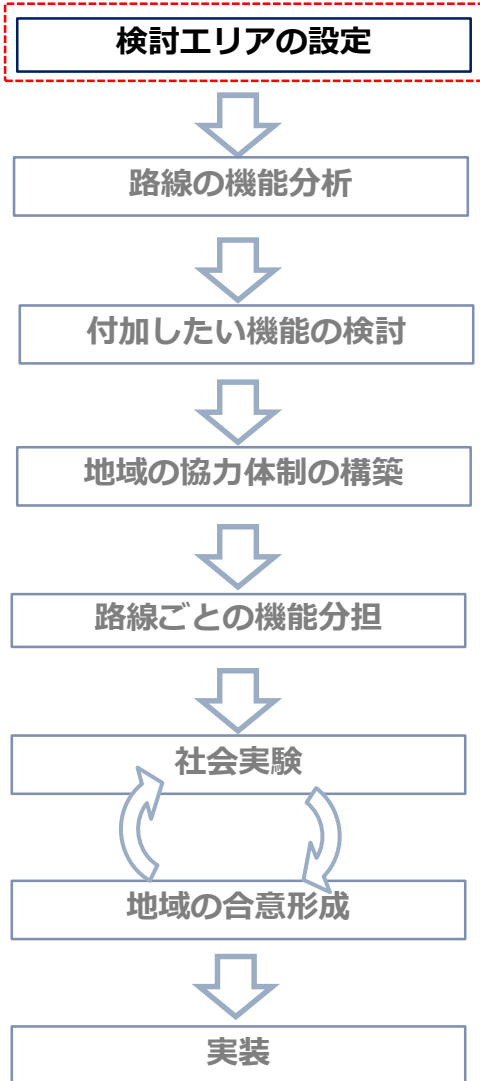
利用状況や地域のニーズを的確に把握し、使い方の工夫により道路を「賢く使う」



管理者毎による個別対策から面としての総合対策

検討エリアの設定

・まちづくりの将来ビジョンや道路の将来像、地域が抱える課題を基に、鉄道駅などの交通拠点や商店、病院、市役所などの日常生活で利用する施設を含む地域の生活圏を基本として設定



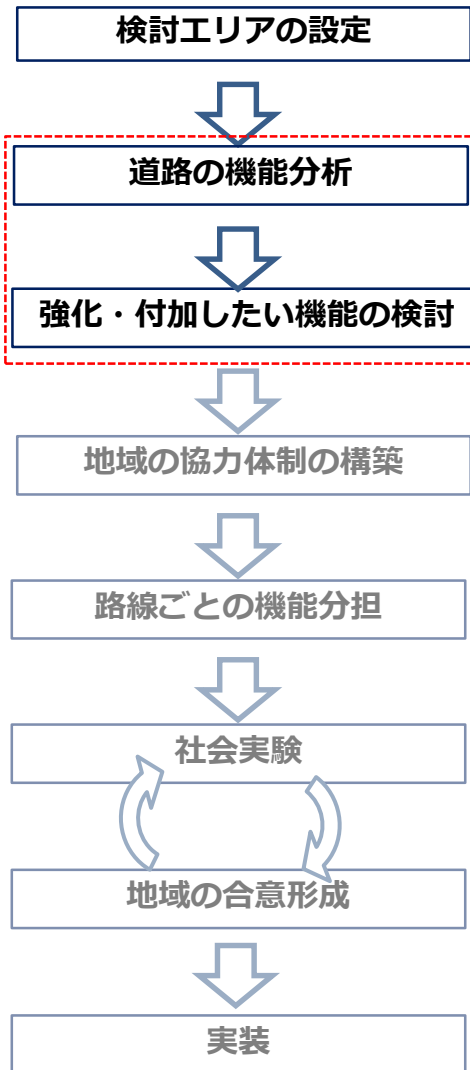
資料) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局



※出典：姫路市 HP

機能分析と機能強化の検討

- ・ 検討エリアで道路が果たしている機能を分析、把握
- ・ 道路で強化したい、または付加させたい機能を検討



◇安全安心に利用できる道路通行機能



◇賑わい空間創出



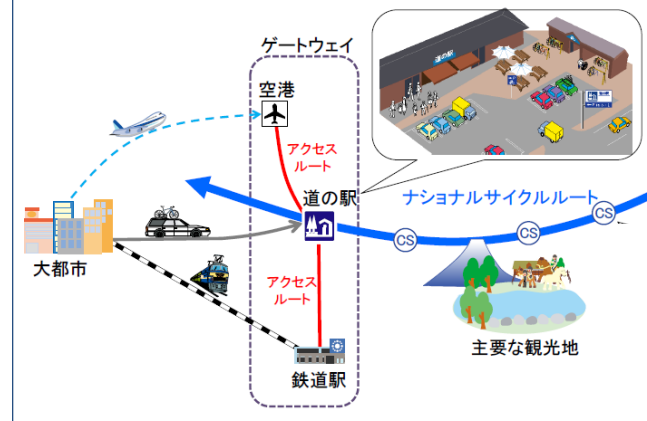
◇物流を支える空間



◇多様なモビリティの通行空間



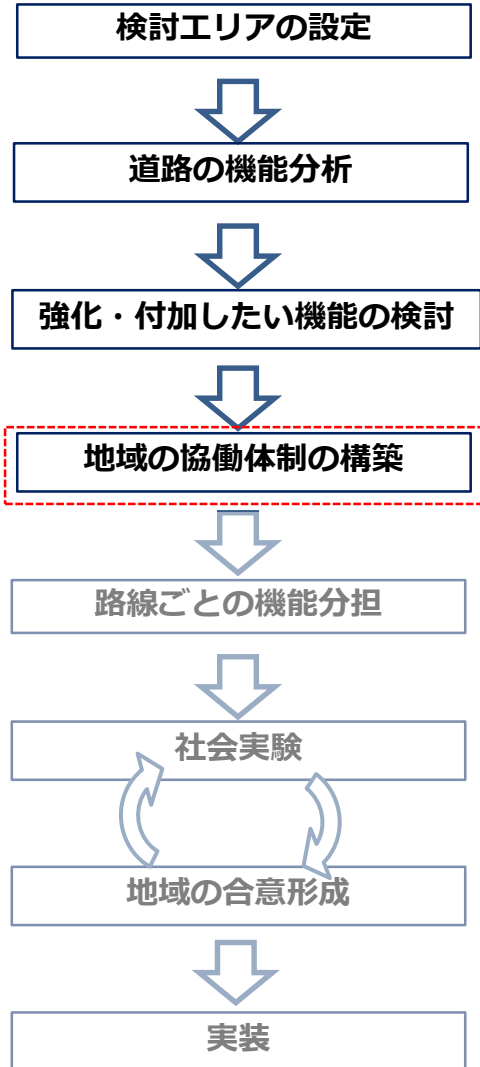
インバウンド×自転車道 (世界の観光客が訪れるまち)



方向性を示して検討を開始した例

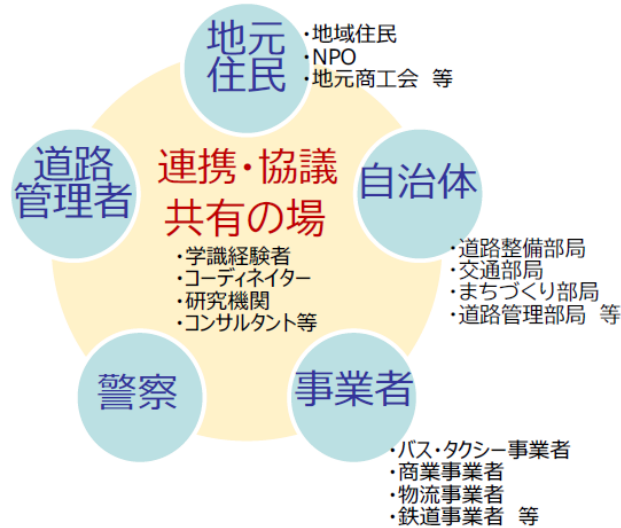


地域の協働体制の構築



・円滑な合意形成や事業推進のためには、「つかう側」の住民・事業者と「つくる側」の行政などが一体となった協働体制を早い段階から構築することが重要
 ・事業の目的、検討の進め方、スケジュール等を情報提供・周知することで、地域住民や事業者などの取組への参画意欲を醸成

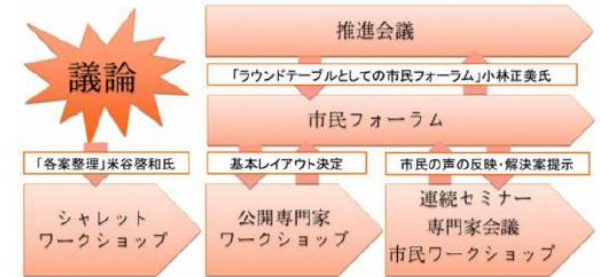
◇住民・行政・事業者が一体となった協働体制



◇計画内容の情報発信

・協働体制による取組では、事業の目的、検討の進め方、スケジュール等を幅広い手法で情報提供・周知することにより、地域住民や事業者等の取組への参画意欲を醸成する。

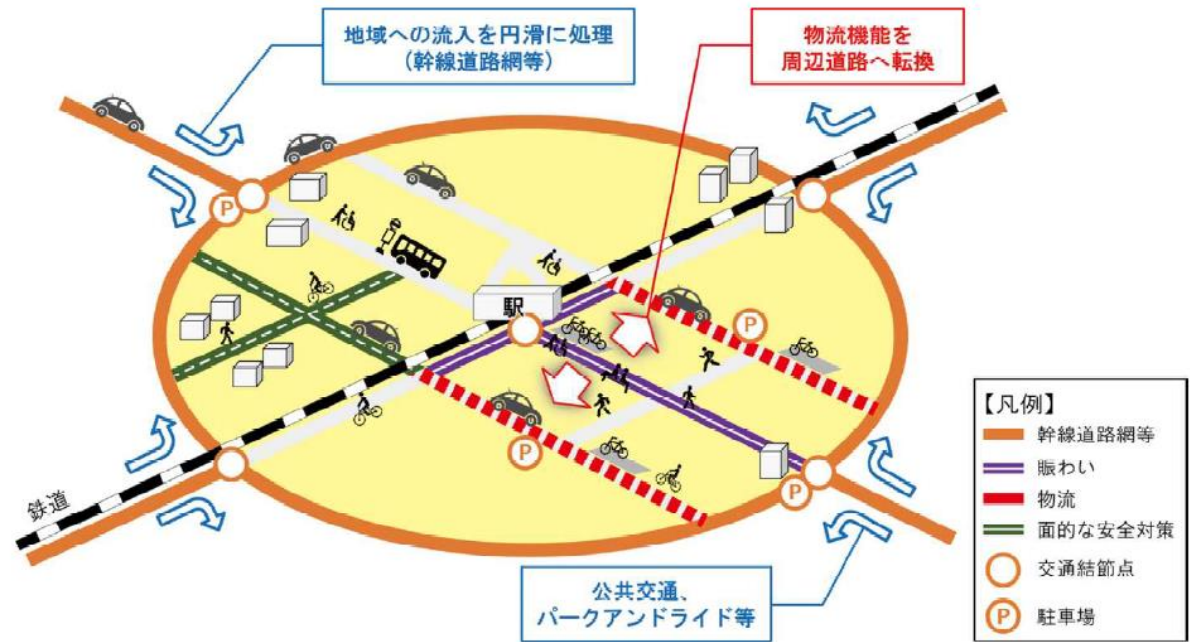
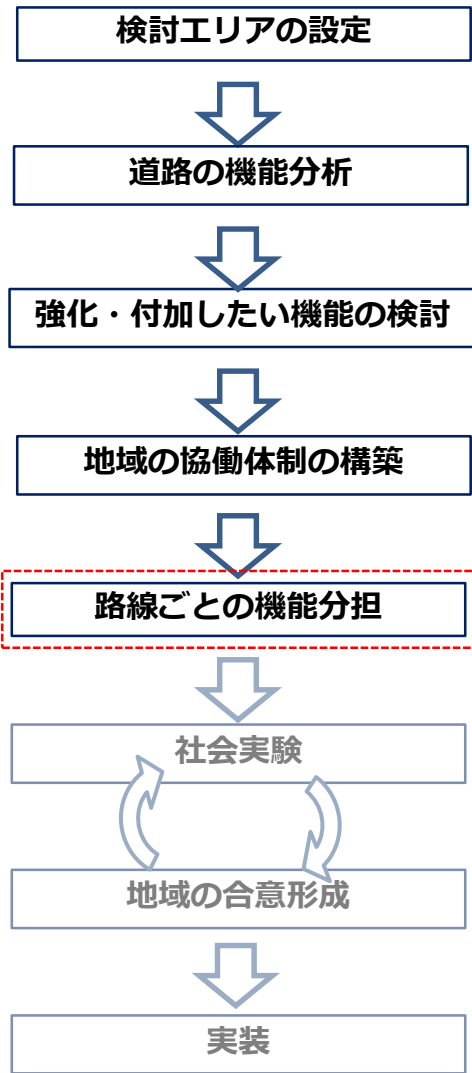
市民や行政を巻き込んだしくみ



※出典：姫路市

路線ごとの機能分担

・検討エリアで道路が果たしている機能と強化したい、付加させたい機能を踏まえ、路線ごとの機能分担を検討

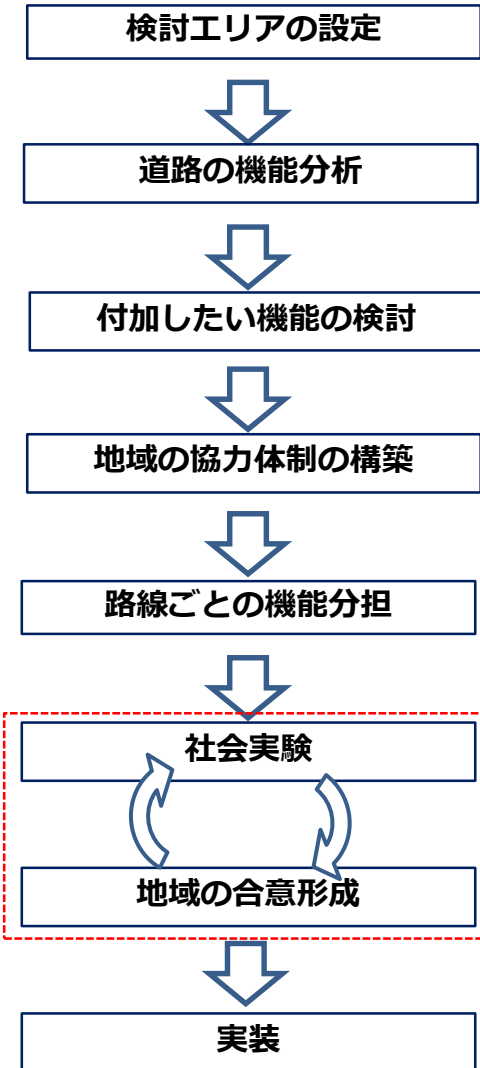


(検討の視点)

- ・道路空間再編
- ・デジタル化 (DX)、グリーン化 (GX)
- ・サイクルツーリズム
- ・次世代モビリティ
- ・無電柱化

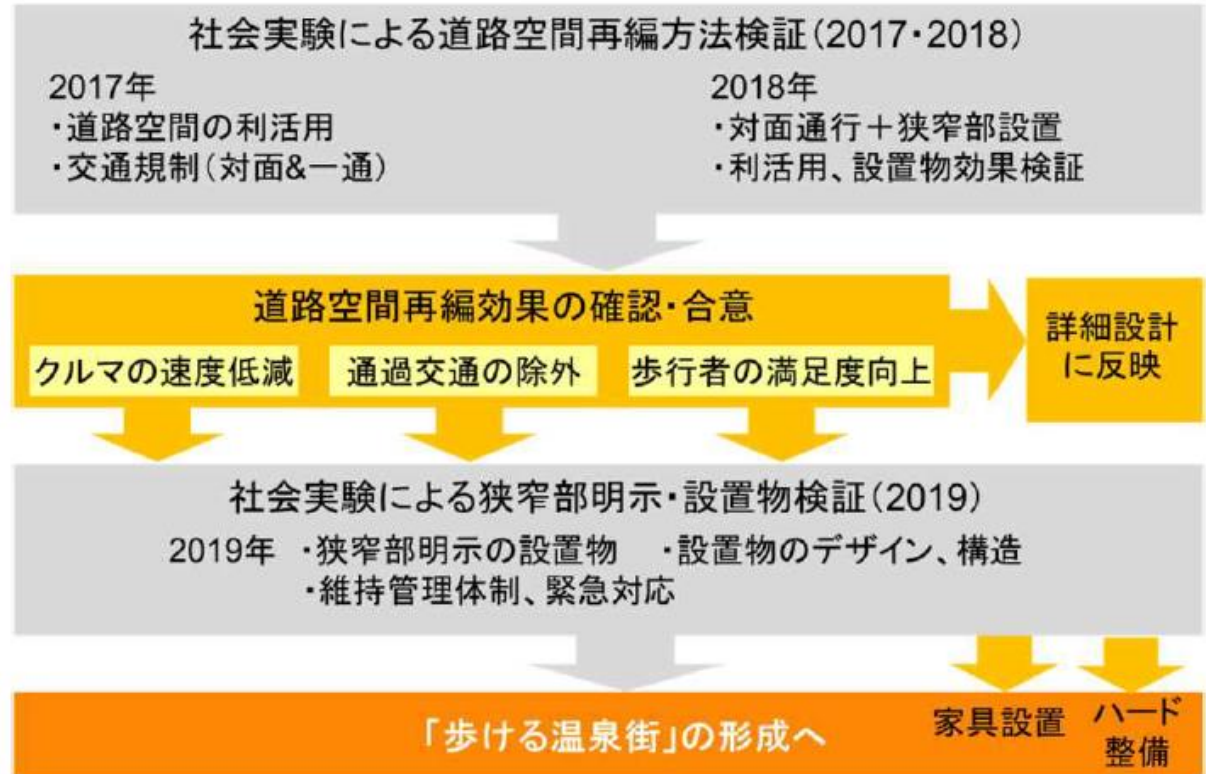


社会実験と合意形成



・円滑に地域の合意形成を図るためには、社会実験等を通じて一般交通への影響や効果を検証することが有効

◇社会実験の実施例

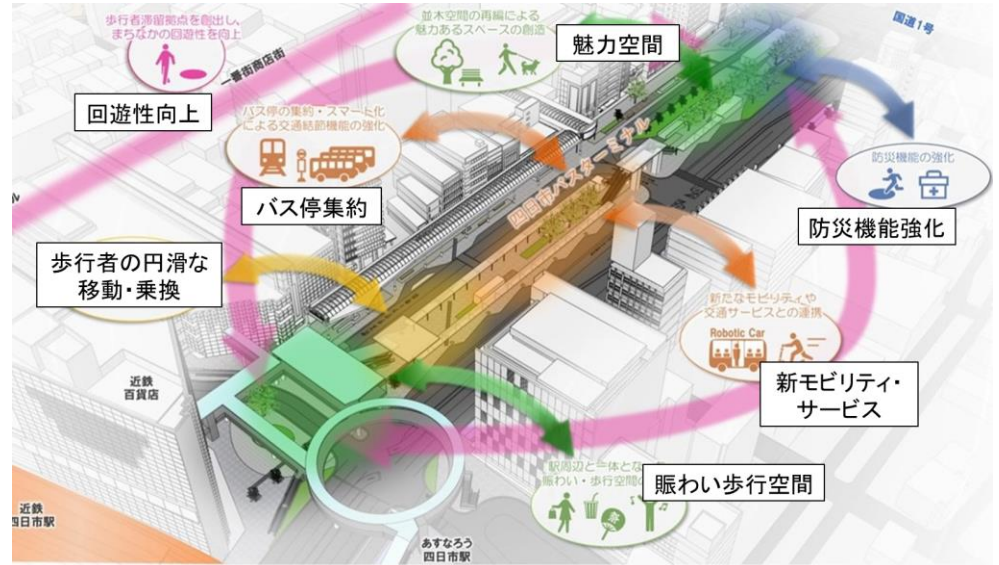


出典：「長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクト」泉委員提供資料より抜粋

交通拠点の機能強化



バス「四日市」令和3年度事業化



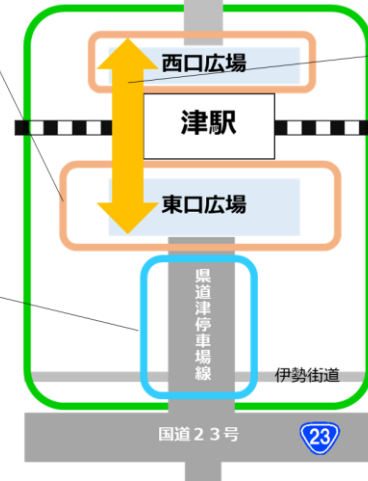
津駅周辺での整備方針を策定

(1) 公共交通の利便性の強化 災害時の対応の強化

- 交通結節機能の強化 (バス停、タクシー・家用車乗降場の再構築)
- 歩行者デッキなどの整備 (東口)

(2) 歩行者の賑わいや滞留の強化

- 駅前通りの歩行空間の拡張
- 占用の緩和を通じた民間利用の促進



(3) 東西連携の強化

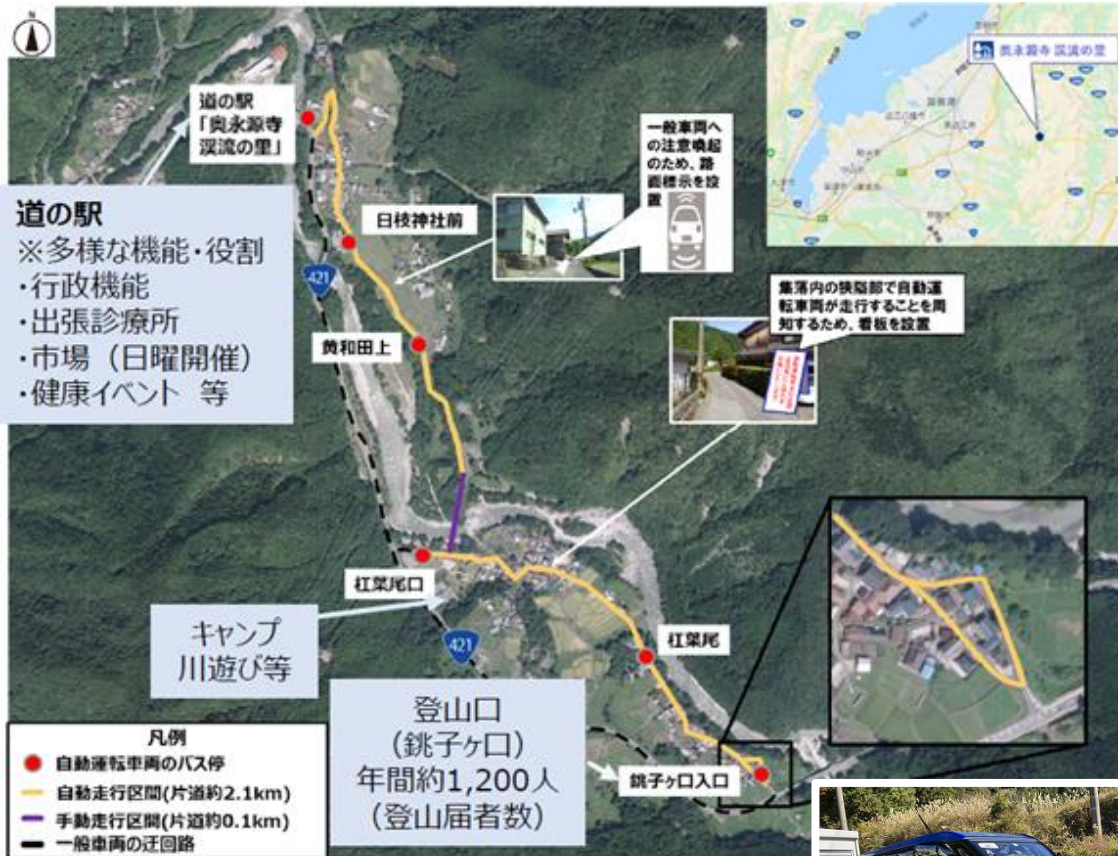
- 東西自由通路の整備 (東西を快適に移動し、交流を高める)

(4) 駅周辺の回遊性の強化

- ICTを活用した案内看板の設置
- 植栽や美化活動の協働の取組
- 街灯の充実

自動運転（実証実験の例）

◇道の駅「奥永源寺 溪流の里」（滋賀県東近江市）



◇桑名市（路線バス：市役所～桑名駅間、大山田団地）



◇桑名市（タクシー型自動車：市役所～桑名駅間）

運行ルート 桑名駅東口バスロータリー～
柿安コミュニティパーク駐車場（往復）



